

静岡市街地から近距離の里山を生かした 野外保育ゆたかの保育活動

野外保育ゆたか（静岡県）

<http://yhyutaka.com/>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

南に駿河湾、北に南アルプス、その中間に我々の活動場所である日本平丘陵があり、静岡市は市街地のすぐ近くに自然豊かな環境や里山がある。しかし、これらの環境資源が子育てや保育、教育に活用されているとは言い難い。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

幼少期に身近な自然環境の中で毎日を過ごすことで、未来の予測がつかない情報社会の中でも主体的に社会の諸問題に関わっていけるしなやかな心身が生まれ、社会的には静岡の豊かな自然環境を子育てに生かすモデルになるのではないかと考え、自然の中での教育を行う森のようちえんの開園に至った。

取組の概要

🌿 取組の内容

保育時間は月曜から金曜の 9:00 から 14:30。2019 年現在 3 歳児、4 歳児、5 歳児の 3 学年 24 人が所属。地元農家から借りているメインフィールド「ゆたかの畑」とその周辺の日本平ハイキングコースなどが主な活動場所。

🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

朝の会で子どもたちは一人一人「今日やりたいこと」「今日行きたい場所」などを発表する。午前中散歩に出て午後は「ゆたかの畑」で過ごすことも、昼食を持って 1 日山の中で過ごすこともある。週 1 回は年長児が昼食を準備する「食の日」。マッチで火をおこし、かまどで米を炊き、味噌汁や煮物を作る。食事の支度は細かな指示をせず、自分たちで考えてやってみることを大事にしている。焚き付けに使う杉の葉も、散歩に行ったときに拾ってきて保管。

「あるものでいかに暮らしを作るか」の体験の機会にもなっている。食の日の午前中は年少と年中は散歩に出掛け、帰ってきたら昼食ができています。年少年中は自分が年長になって食事の支度をするのを楽しみにしている。

偶然の出会いや天候の変化などにより、朝話していた予定から変更になることも多くあるが、そういった自然の中ならではの出会いや子どもたちの気持ちの動きを大切に考えている。



「ゆたかの畑」近くの農地の持ち主や活動場所を整備している里山保全団体には、いつでも自由に遊びに来ていいと場所提供や作物をいただくことがあったり、散歩コースにある地元団体が整備するお花畑も遊び場にさせてもらっていたりと、周辺地域の住民も活動を理解、協力していただいております、子どもたちと活動されている年配の方々の触れ合いの場面も見られる。



実施体制について

保育者は常時4名で、保育士や幼稚園教諭などの有資格者が半数を占める。また、半数は野外での環境教育活動の経験者である。幼児期は知識の取得より、自然の中に身を置き、自分の体で色々なことを感じ、不思議に思うといった心が動く体験を重視し、失敗しながら学ぶことを優先するべきと考えている。保育者はそれぞれの季節での各フィールドの情報を収集し、計画や安全管理などに役立てている。

安全性への配慮

独自の安全マニュアル作成や安全に関する講習会への参加、ヒヤリハット報告の即時の共有などを心掛けている。危機回避訓練を子どもと共に月1回程度実施しており、自ら身を守る方法も伝えるようにしている。2019年森のようちえん団体安全認証取得。

地域機関・団体との連携

2016年に静岡市主催の移住ツアーを受託し、ツアー参加者のうち2組が静岡に移住し入園した経緯がある。その後も、静岡市の移住ツアーのプログラム実施や、東京にある「静岡市移住支援センター」経由で移住検討者の見学受入れ等を行っている。

取組による効果

子供・保護者への影響

保護者から「自ら考えて何とかしようとする力」や「自然物や気候などに対する敏感さ」等が育まれていると感じるという声がある。また、卒園児の中には「小学校の遠足はなぜ先生が行き先を決めるのか」と、世の中の当たり前的事柄に対し疑問を持つ視点も見られる。

地域社会への影響

近隣の地域住民から、活動への賛同の声が聞かれたり、協力を申し出ていただける方がいらっしたりと、子どもが自然の中で育つことに意義を見いだしていただいていることが分かる。また、静岡市の他の子育て支援団体からも関心が高く、子育てをする場としての自然環境の役割に気付いてもらうきっかけになっている。

取組を通じて全体的な所感

子どもたちが本来持っている育とうとする力が一番発揮しやすい場が自然の中だと感じている。また生活に根ざした本来の日本の子育てを再現しやすい場でもあると思っている。幼少期に自然の中で育つことが当たり前の世の中になれば、自ら自分の道を切り拓いていける人が増えるという希望を持っている。